

HUMAN RIGHTS

市民創作劇「人間に光あれ! 汚染ものがたり」

阪南市

●講演会形式から、市民参加型の催しへ

阪南市では、1999年以降、人権週間(12月4日～10日)記念事業を、従来までの講演会形式から、市民参加型の催しへと発展を図り、「人権まつり」として開催しています。

1999年は、「障害者の日」(12月9日)の意義もふまえて開催しました。福祉講演会、太鼓作りの実演や盲導犬訓練の実演、市内共同作業所の活動と製品の紹介、車イスダンスの披露、和太鼓演奏と手話コーラスが行われました。手話コーラスでは、この日に向けて市内各地域で数回にわたっての練習に参加した約100人の皆さんが、練習の成果を披露しました。

翌年は、「平和の文化国際年」を基調テーマとし、人権・平和・国際理解を目指す市民参加の催しとして開催しました。市内作業所の皆さんによる展示と物品バザー、市民の皆さんと大阪市内の小学校の児童の皆さんによる韓国の伝統音楽サムルノリ演奏、チベット出身の歌手による歌と講演などが行われました。

●市民参加の手づくりの創作劇

3回目となった「人権まつり」は、2001年12月9日に開催し、市民創作劇「人間に光あれ! 汚染ものがたり」を上演しました。この劇は、「汚染一揆」を題材にした、手づくりの創作劇です。身分制度という差別が政治的に組み込まれた封建時代に、命を賭けてその矛盾を訴えようとする被差別の身分の人々の叫びを通して、差別の非情さ、人権尊重の大切さを訴え、鑑賞者、出演者がともに人権意識の高揚を図ることを目的につくられました。

この劇には、一般公募で集まった8人の市民の皆さんとともに、15人の阪南市の職員も参加しました。また、劇中、踊りの場面では阪南市連合婦人会の皆さんの踊りが披露され、場面転換では、小中学生のコーラスによる童謡がつなぐ、というようにたくさんの方



にご参加頂きました。また、劇の「主役」ともいべき「汚染」の着物を染めるためのドングリは、秋の遠足で公園にでかけた幼稚園児の皆さんが集めてくれました。まさに、大勢の方々の「手づくり」の劇になりました。

出演者のなかには、演劇が大好きでという人もあれば、まったく初めてという人もありましたが、仕事の疲れを忘れるような、和気あいあいとした稽古のなかで、新たな出会いが生まれました。さらに、翌2002年8月には、リパティホール(大阪人権博物館)で再演することができ、より多くの方々にご覧いただくこともできました。

●人権問題を考えるきっかけに

劇を見ていただいた皆さんからは、「人間解放への誇りと情熱が心を打った。すばらしい市民劇に絶賛の拍手をおくりたい。これを機会に『人権文化』の創造と発展にさらなる仲間づくりの輪を広げてほしい」、「『人の世に熱あれ、人間に光あれ』この言葉を胸にがんばって生きていきます」などの声を寄せていただき、望外な成果を得ることができました。しかし、何よりも大きな成果は、この劇にかかわった人たちが、それぞれのかたちで人権問題について考えることができたことだと思っています。



市民が参加した創作劇